

ニュースを語る ～社会的現実を作るメディアトーク～

日吉 昭彦 (Hiyoshi Akihiko) 石山 玲子 (Ishiyama Reiko) 松田 光恵 (Matsuda Mitsue)
 鈴木 靖子 (Suzuki Yasuko) 川上 善郎 (Yoshiro Kawakami)
 (成城大学大学院コミュニケーション学専攻)

キーワード: マス・コミュニケーション、ニュース、社会的現実

目的

マスメディアによって伝えられるニュースとの接触を通し、またそれらを人々と語り合うことを通し、私たちは社会的現実を形成する。このようなプロセスは、私たち受け手の側にも存在するのではなく、マスメディアの送り手の側にも存在するのではないかと。本報告は、報道内容の内容分析から、多様なメディア間の「重複化」「共鳴化」現象を検証する目的で行った。

ひとつの出来事が私たちに伝えられる経路はこれまでになく多様化している。インターネットなどの新しい伝達メディアの登場、伝統的なニュース伝達メディアにスポーツ新聞やワイドショーなどの参入など、伝達メディア自身の多様化がまず指摘できる。結果として、ニュース伝達時間の多様化(24時間発信)、伝達内容の多様化(マルチメディア化、ニュース・ショー化)などが進行中である。それぞれのメディアがその特性に応じた内容を伝えるばかりではない。あるメディアで伝えられた内容が別のメディアに引用され、あるいはそれまで控えていた報道を開始するきっかけとなったり、番組参加者のトークなどで推測や歪曲が加えられたりし、あらたなニュースとして送り出されたりする。

本報告は、昨年度の報告(川上他2001)においてとりあげた15のニュースについて、メディア間の相互作用を通してどのように報道されてきたかを多様な側面から分析するものである。

方法

2001年3月9日から3月16日の期間に放映・発行されたテレビ・新聞・インターネットニュース・スポーツ新聞をサンプルに、朝日新聞系列(テレビ朝日、朝日新聞、asahi.com、日刊スポーツ)と読売新聞系列(日本テレビ、読売新聞、Yomiuri Online、スポーツ報知)のメディアを対象として、内容分析調査を行った。テレビは期間中に10分以上放映された全ニュース番組とワイドショー番組を対象とし、比較のためNHKテレビのニュース番組を加えて分析した。また、スポーツ紙も同様に、比較のための他紙を数紙加えてある。

対象となった各メディアの全報道内容から、2001年度の報告(川上他2001)でとりあげた期間中の主要なニュース・トピック15種類(表1参照)について、メディア別/系列別に報道回数や報道量(テレビ番組は放映時間、その他のメディア

は報道文字数)を定量的に分析した。さらに各トピックの露出を時系列上に位置付けるとともに、番組や紙面における重要度や、トピックの提示方法(テレビの場合は映像や音声の分析、その他のメディアの場合は写真の有無や主な論点の分析)などについて定性的に分析を行った。

これら内容分析の結果を2001年度に行った上記15種のニュース・トピックの認知率の結果(表1参照)と照らしあわせて考察を行った。

結果

メディア別/系列別に報道回数や報道量の定量的な分析を行った結果が表2および表3である。

表1における認知率と対比すると、各メディアで報道量の多いトピックにおいて、認知率は高くなっている。また話題にしたトピックとしては、スポーツ紙で多く報道されたトピック(11)が最も高く、以下は全体的に報道量の多いトピックが話題にされていることが分かる。ここから受け手が構成する社会的現実を考察する上で、送り手がいかにメディア内容を提示したかという分析が必要不可欠であることが分かる。

第一に、異なるメディア間の相互の関係を分析した。

テレビにおいて報道量の多いトピックは(1)(3)(4)などであり1時間を超える放映がなされている。こうしたトピックは新聞の場合でもインターネットニュースの場合でも報道量が多くなっており、特定のトピックにおいてニュースの「重複化」現象が見られることが分かる。これらのトピックは政治や国際関係を扱うものであるが、テレビではニュースだけでなくワイドショーも大きく取り上げ、スポーツ報道が主なスポーツ紙の場合もこうしたトピックで報道量が多くなっ

表1. ニューストピックと認知

国	1	米原潜問題で前艦長が行方不明者家族に謝罪	99.0
	2	コロンビアで邦人社長が誘拐される	47.5
	3	機密費流用問題で外務省松尾元室長の逮捕	77.5
政	4	森首相が事実上の辞意を表明し、自民五役と会談	10.5
	5	森首長が「拾われた赤ん坊じゃない」と発言	92.5
	6	三菱自動車クレーム隠しで株主代表訴訟	37.0
事	7	森首相が事実上の辞意を表明し、自民五役と会談	98.0
	8	森首長が「拾われた赤ん坊じゃない」と発言	43.0
	9	三菱自動車クレーム隠しで株主代表訴訟	60.5
件	10	スピードスケート世界選手権で清水宏保世界新	15.5
	11	サッカーくじ、totoでいきなり一億円2本	86.5
	12	シアトル・マリナーズのイチロー初死球	49.0
運	13	篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される	78.0
	14	玉三郎「21世紀座」芸術監督辞任で提訴へ	19.0
	15	久米宏の母が痴呆。妻更年期障害の日々を告白	89.5
芸	16	篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される	21.5
	17	玉三郎「21世紀座」芸術監督辞任で提訴へ	3.5
	18	久米宏の母が痴呆。妻更年期障害の日々を告白	45.0
能	19	篠原ともえ、台湾で酔って大騒ぎと報道される	7.0
	20	玉三郎「21世紀座」芸術監督辞任で提訴へ	3.5
	21	久米宏の母が痴呆。妻更年期障害の日々を告白	45.0

単位/右セル上段: トピック認知率(%)
 単位/右セル下段: 話題にした割合(%)

表2. テレビの系列別の報道回数/報道量

	テレビ						合計
	ワイド	ニュース	朝	日	NHK	合	
国	0:23:30	2:16:08	0:52:50	0:39:28	1:07:20	2:39:38	
	14	66	28	18	34	80	
	0:03:38	0:15:33	0:06:35	0:06:10	0:06:26	0:19:11	
際	2	14	5	4	7	16	
	0:09:53	1:09:48	0:22:18	0:10:15	0:37:15	1:09:48	
	8	43	13	8	22	43	
政	1:00:20	1:32:54	0:38:35	1:23:01	0:31:38	2:33:14	
	7	21	8	11	9	28	
	0:04:20	0	0:04:20	0	0	0:04:20	
経	1	0	1	0	0	1	
	0	0:01:32	0	0	0:01:32	0:01:32	
	0	0	0	0	0	0	
事	0:05:50	0:06:37	0:04:45	0:03:50	0:03:52	0:12:27	
	2	3	1	2	2	5	
	0:03:52	0:07:15	0:01:55	0:01:47	0:03:33	0:07:15	
件	4	7	2	2	3	7	
	0	0	0	0	0	0:00:00	
	0	0	0	0	0	0	
運	0	0:14:33	0:04:53	0:01:23	0:08:17	0:14:33	
	0	13	4	3	6	13	
	0:07:06	0	0:04:51	0:02:15	0	0:07:06	
動	3	0	2	1	0	3	
	0	0:00:39	0:00:39	0	0	0:00:39	
	0	1	1	0	0	1	
芸	0:10:51	0	0:06:45	0:04:06	0	0:10:51	
	5	0	3	2	0	5	
	1:02:41	0	0:35:29	0:27:12	0	1:02:41	
能	10	0	5	5	0	10	
	0:45:41	0	0:13:59	0:31:42	0	0:45:41	
	3	0	2	0	0	3	

単位/各セル上段: 放映時間
単位/各セル下段: 放映回数

ている。このようにニュースが伝わる経路はメディアが持つ様式や性格を越えて多様化している。

一方、テレビにおいては放映されなかったトピック(9)や放映の少ない(6)は、新聞とインターネット・ニュースではフォローされており、(12)はスポーツ紙で報道されている。こうしたトピックは長期間に渡る調査が必要な報道や、逆に非常に短い場面が扱われているものであるが、映像のメディアよりも、むしろ解説や写真を扱いやすいペーパーメディアで扱われている。ここからメディア特性に応じた内容伝達のあり方が分かる。ワイドショーで芸能ニュースが多いのは特徴的である。

このように多様化した情報経路の実態が明らかになるが、二つの意味でマルチメディア化が進行していることが分かる。さまざまな性格を持つメディアが多様にあるという意味でのマルチメディア化と、多様なメディアによって同一の内容が伝達されているという意味でのマルチメディア化である。

系列に着目すると、朝日新聞系列のメディアと読売新聞系列のメディアに違いが見られるとはいいたい。テレビでは(1)(3)において朝日系列が報道量が多くなっているが、その他のメディアでは朝日系列が多いわけではなく、系列を越えた「重複化」が目につく。メディア形式の共通性に着目すると、テレビで放映の少ない(5)(6)(9)などのトピックはスポーツ紙においても報道量が少なく、マルチメディア化の中でメディア特性が互いに近接する姿を見ることができる。

第二に、定性的な観点からケーススタディとして各トピックの報道を分析した。各トピックは、当時に長期間にわたり社会問題として展開したものと、当日や翌日のみ報道された短期的なニュース・バリューのものがある。

どのメディアでも多く取り上げられているトピック(1)は長期に展開したニュースである。トピックの重要度を、番組で紹介されたニュースの順番で示したところ、このトピックの放映の50%以上は5番目以内での扱いであり、重要なニュースとして扱われていることが分かる。報道はテレビの速報から始まった。インターネットニュースが出来事の展開を数度にわたり更新した後、その日の夕刊の新聞で取り上げられ、夕方のテレビニュースでも繰り返し伝えられた。翌日はテレビのニュース番組で長時間にわたり解説され、謝罪に関するニュースを含む形で展開したその他のニュースとともに、数

日間の報道が続いた。森前首相の辞意表明のニュースは、事前に予期され、また不確定なものを含むニュースであるが、事前情報や推測を含めて出来事をさまざまなメディアが語ることにより、話題が広がり、長期間に渡り報道された。

表3. メディア別/系列別の報道回数/報道量

	新聞			インターネット			スポーツ紙			合計
	朝	日	合	朝	日	合	朝	日	合	
国	5575	6877	12452	7655	6012	13667	1227	3787	598	5612
	10	16	26	16	16	32	3	8	2	13
	5896	2543	8439	1534	3079	4613	343	408	1929	2680
際	5	4	9	2	4	6	1	1	4	6
	16312	11337	27649	5582	13736	19318	2552	2455	2977	7984
	11	16	27	7	17	24	4	5	6	15
政	6284	15242	21526	3223	80	3303	0	6123	2414	8537
	7	20	27	5	1	6	0	4	3	7
	403	314	717	304	487	791	0	0	0	0
経	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0
	482	916	1398	0	635	635	0	0	0	0
	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0
事	1362	342	1704	338	464	802	240	0	0	240
	1	2	3	1	1	2	1	0	0	1
	375	432	807	585	424	1009	477	442	264	1183
件	1	1	2	1	1	2	1	1	1	3
	820	547	1367	620	0	620	0	0	0	0
	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0
運	272	2740	5012	242	1200	1442	2048	1181	960	4189
	3	2	5	1	3	3	3	2	2	7
	364	1634	1998	367	714	1081	4294	2534	4791	11619
動	1	2	3	1	2	3	2	2	3	7
	0	0	0	309	0	309	1686	1560	2176	5422
	0	0	0	1	0	1	1	1	2	4
芸	245	0	245	0	0	0	0	0	1205	1205
	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2
	405	1966	2371	0	309	309	706	1203	1846	3755
能	1	2	3	0	1	1	2	2	2	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

単位/各セル上段: 報道文字数
単位/各セル下段: 記事数

私たちはニュースを語り合うことで社会的現実を形成するが、接触するメディアもいわば相互におしゃべりをするように語り合っているのである。

「拾われた赤ん坊」発言報道は比較的に短いスパンで速報がなされた後は完結している。一方、同じく短いスパンで取り上げられたトピック(12)は、速報では手短な報道のみであったが、翌日以降にスポーツ紙が写真付きで大きな報道量で取り上げている。ここから明らかのように、トピックの形式によって、ニュース報道は多様な展開の形をとる。事件を扱ったトピック(8)は事件の後に時間を経てから報道されているが、このトピックを扱ったメディアを見ると、ワイドショー、インターネットニュース、新聞、スポーツ紙といった順序性があつた。またトピック(14)は新聞報道の後の3日後からワイドショーで大きく取り上げられ、テレビ報道がなくなった頃にスポーツ紙が再び出来事を取り上げている。

このようにニュース伝達を時系列的にみても、速報性からより早く報道された内容が次第に展開したり、解説性からより多く報道された内容が、別のメディアに移行してゆくなど、メディア間で相互作用する「共鳴化」現象をみることができる。メディアの「語り」が「語り」を呼ぶ現象である。それはマルチメディア化という情報空間の中で展開されるメディア間の「語り」、つまり「メディアトーク」なのである。

ニュースに接する私たちはこうした「メディアトーク」に共鳴しつつメディアと相互作用し、重層的な「語り」を通じて社会的現実を構成しているのである。

文献: 川上善郎他、2000年度-2001年度科研費基盤研究(B)(2)「社会的現実形成にかかわるニュースメディアの可能性と限界」(課題番号12410040)